

〔編集後記〕

今回の編集後記は、2020年4月から本誌の編集主幹を務めることとなった高橋裕樹が担当します。

私は1989年に本学大学院において医学博士学位を取得しましたが、その当時の大学院生の多くは本誌に学位論文を提出し学位を取得しており、年度末に掲載証明をもらって、審査に間に合わせるため自費で別刷りを作成する必要があり、校正のために印刷所を往復した経験は珍しくないこととっていました。言い訳をすれば、現在のような用意周到立った大学院生活を指示されることなく、臨床と研究を体力にまかせて行っていた時代であり、英文誌にアクセプトされるような論文を仕上げる余裕がなかなか、なかったとも言えます。その後、大学院生の多くが英文誌にアクセプトされた論文で学位取得することが増え、その背中をみて育った大学院生がまた、それを見習うこととなり、本誌の学位論文掲載誌としての利用は減少したという経緯については、過去の編集後記（特に2015年、2017年）も参照にさせて頂きたいと思います。本学の理念の1つである「国際的・先端的な研究を進めます」を踏まえ、研究成果を海外に発信するため、英文誌に発表するのは至極当然の状況ですが、その中で本誌の存在意義をどう位置付けるのかは極めて難しい問題です。前任の三高編集主幹が引いて下さったルールに則りながら、さらに紙面充実の方策を新しい編集委員会のメンバーと相談していきたいと思っています。

さて、本号についてですが、昨年、退任される医学部教授の最終講義がコロナ禍で行うことができず、本誌にその内容を掲載させて頂くことになりました。実はこれまで、最終講義を印刷物の形式で保存していないことが判明しましたので、これを契機に退任教授の最終講義を原稿として執筆して頂くこととなりました。

今年度は堀尾嘉幸先生(薬理学講座)、三浦哲嗣先生(循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座)、下濱俊先生(神経内科学講座)の3名をお願いしております。実はこの編集後記を書いている時点で、令和2年度の最終講義がどうなるかは決まっていないのですが、いずれにしても退任される3名の教授のこれまでの業績を改めて確認し、さらに長年本学の研究教育にご尽力された諸先生からのメッセージを受け取って頂きたい、是非ご一読下さい。また、廣田亮介先生の原著論文に加え、本学医学部の若手研究者の活動をより学内に「宣伝」するため、6名の先生から研究論文紹介に原稿を頂きました。代表的な図表もつけて頂いており、アブストラクトよりは平易に全体像が理解できる短報ですので、原著にあたるきっかけになればと思います。内容が専門外領域であっても活動の場を同じくする他の研究者・教室の活動を知ること、単純に刺激になるとともに自らの研究に応用できる可能性を提供できるのではないかと考えます。特に解剖学第二講座助教の齋藤悠城先生の論文(Exercise enhances skeletal muscle regeneration by promoting senescence in fibro adipogenic progenitors. Nat Commun 2020; 11: 889)は骨格筋間葉系前駆細胞の細胞老化が筋再生に及ぼす影響を解析した研究であり、令和2年度の本学若手研究者最優秀論文賞を受賞されています。

教室などにこっそり置いてある本誌を手にとったときに、最後のこの編集後記だけを斜め読みする方もいらっしゃるかと思いますが、上述の駄文を参考には是非、本誌全体に目を通して頂ければ幸甚です。

(編集主幹 高橋 裕樹)

札幌医学雑誌投稿規定

1 投稿資格

- 1・1 本学教職員（過去に所属歴のある者を含む）。
- 1・2 大学院生。
- 1・3 本学の教員と共同研究を行う者。
- 1・4 本学同窓生。
- 1・5 その他編集委員会が認めた者。

2 種類

- 1・1 論文は和文または欧文の原著（短報）、総説、症例報告、研究論文紹介、教育・研究報告、その他編集委員会が認めた論文を随時掲載します。
- 1・2 原著論文の内、図表が3点以内の場合は短報として取り扱う

3 制限

- 3・1 掲載は受理順とし、同一号に1著者、1論文を原則とします。
- 3・2 原稿作成基準は次のとおりとします。
- 3・2・1 提出原稿はワープロによる（MS-Wordまたはtext file）。各ページには行番号とページ番号を入れて下さい。
- 3・2・2 和文論文は横書きとし、A4、12ポイント、36字×30行で原著は15枚程度、症例報告は10枚程度とします。この中には本文、英文抄録（和訳を添える）、文献を含みます。
- 3・2・3 欧文論文は英文とし、A4、12ポイントで、上下、左右に2.5cmの余白をとり、ダブルスペースで、原著は30枚程度、症例報告は10枚程度とします。この中には本文、英文抄録、和文抄録、文献を含みます。
- 3・2・4 キーワードは英語で5項目以内とし、英文抄録のあとに書いて下さい。
- 3・3 英文（要旨も含む）には、英語を母国語とする有識者の英文校正証明書を添付して下さい。
- 3・4 投稿規定に不適合の論文は受け付けないことがあります。

4 体裁

- 4・1 原稿の記載順序は標題、著者名、所属機関名および主任者名（和文の場合はそれぞれに英文をつけ姓は大文字として下さい）、英文抄録、キーワード、本文、文献、図、写真、表、和文抄録として下さい。
- 4・2 本文は大項目1、中項目1・1、小項目1・1・1、のように分け方で書いて下さい。
例：1 緒言
2 実験方法
3 成績
3・1 動物実験の成績
3・1・1 ラット群
3・1・2 マウス群
3・2 臨床実験の成績
4 考察
- 4・3 和文
- 4・3・1 口語体で現代仮名づかい、横書き、楷書で句読点（、），括弧（ ）は各1字分を用い、改行は文頭1字分をあけて下さい。
- 4・3・2 外国語は原字としますが、熟知慣用されている外来語、および動植物名はカタカナを使用して下さい。
例：インターフェロン、ジギタリス、カラードブラ、ヒト、イヌ
- 4・4 術語は日本医学会医学用語委員会の編集によるものを基準とし、各専門分野において使われる用語を加えます。数字は算用数字を用い、各単位の表示は国際単位に従って下さい。
- 4・5 略語
- 4・5・1 長い（用字の多い）用語が最初に書かれる場合には、すべてを書いてから括弧（ ）で略称又は略語を書いて下さい。これらの用語が文中に繰返してでくる場合には、まとめて最初の頁の脚注に掲げるようにして下さい。
例：GC・MS、RIA、Hb

4・6 図表

- 4・6・1 図、写真、表は別紙にして下さい。本文中には挿入箇所を指示して下さい。
- 4・6・2 図版の電子データのqualityは、原則300dpi以上として下さい。
- 4・6・3 図、写真、表のタイトルおよび説明文は英文論文の場合は英文、また和文論文の場合は和文として下さい。
- 4・6・4 写真については縮小率がわかるように、写真内にbarを入れて説明文に明記して下さい。
- 4・7 文献
- 4・7・1 文献は別紙とし、本文中に引用した順序に従って番号をつけて下さい。また著者名が複数の場合には、省略せず全員を記載して下さい。著者がequally contributedの場合は、太字（Bold）で示して下さい。
- 4・7・2 巻や頁が確定していない段階で「Epub ahead of print」として雑誌刊行以前にオンラインで発表されている文献は、[Epub ahead of print]を明記し、DOI（Digital Object Identifier）を併記する。オンラインでのみ公開されている論文はDOIを明記する。DOIの付与されていないオンライン文献はURLを付記する。
- 4・7・3 公表以前のものを引用する場合は、印刷中（in press）のみ認めます。これ以外について述べる場合には、本文中に著者名（author）入りで、未発表（unpublished

observation）または私信（personal communication）として引用して下さい。

- 4・7・4 インターネットのウェブサイトを用いる場合は、NLMのCiting Medicine第2版（<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK7256/>）に詳述されている基準に従って記載する。

例：

雑誌（標準的論文）

1. Herlihey FA, Moynihan PJ, Clarke AJ. The essential protein for bacterial flagella formation FlgJ functions as a β -N-acetylglucosaminidase. J Biol Chem 2014; 289: 31029-31042.
2. 射場浩介, 阿部恭久, 山下敏彦. 骨粗鬆症の疼痛発生メカニズム. 札幌医学雑誌 2012; 81: 7-12.

Epub ahead of print

3. Massimiliano S, Iljaz H, Giacomo C, Giulio F., Tracheal intubations and airway trauma COVID-19. Br J Anaesth. 2020 May 19;S0007-0912(20)30364-0. [Epub ahead of print], doi: 10.1016/j.bja.2020.05.013

オンラインジャーナル（DOIあり）

4. Christiansen IK, Sandve GK, Schmitz M, Dürst M, Hovig E. Transcriptionally active regions are the preferred targets for chromosomal HPV integration in cervical carcinogenesis. PLoS One 2015; 10: e0119566. doi: 10.1371/journal.pone.0119566.

オンラインジャーナル（DOIなし）

5. Haubold-Reuter BG, Landolt U, von Schulthess GK. Bronchogenic carcinoma mimicking metastatic thyroid carcinoma. J Nucl Med 1993; 34: 809-811. (<http://jnm.snmjournals.org/content/34/5/809>. Accessed Mar 6, 2017.)

単行本（個人の著者）

6. Venables WN, Ripley BD. Modern applied statistics with S. 4th ed. New York: Springer; 2010.

単行本（章の引用）

7. Solensky R. Drug allergy : desensitization and treatment of reactions to antibiotics and aspirin. In: Lockett P. ed. Allergens and Allergen Immunotherapy. 3rd ed. New York, NY: Marcel Dekker: 2004. p585-606.
8. 坂部貢. 治療と今後の課題をさぐる. In: 井上雅雄, 藤田清臣編. シックハウス対策の最新動向：環境設計・測定・治療. 東京：エヌ・ティー・エス；2005. p.324-328.

ウェブサイト

9. Porter N. High turnover among early childhood educators in the United States. Child research net. [Internet]. [cited 2016 Oct 6]. Available from: http://www.childresearch.net/projects/ecec/2012_04.html

- 4・7・5 欧文誌名の省略は、PubMedで使っているNLM Catalog: Journals referenced in the NCBI Databases（最新版）に準じて下さい。和文誌名は省略せずに誌名を記載して下さい。

- 4・7・6 例題以外の文献引用の形式については「生物医学雑誌投稿に関する統一規定」（国際医学雑誌編集者会議）を参照して下さい。

- 4・8 本文中に著者の名を出して文献を引用するときは、著者の数により次の例にならして下さい。

- 例：1名の場合：福田¹⁾、James^{2,3)}
- 2名の場合：田中、橋本⁴⁻⁶⁾、Lee, Owen^{7, 9-11)}
- 3名以上の場合：山下¹²⁾、Moore *et al.*¹³⁾

5 著作権

掲載された著作物の著作権は執筆者に属します。ただし、執筆者は、本学及び本学から委託された機関が札幌医学雑誌に掲載された著作物を電子化して公開することを、許諾したものとします。

6 利益相反および公的研究費の開示

投稿論文の内容に関し、「北海道公立大学法人札幌医科大学利益相反管理規程」に基づき、当該論文に関する利益相反に関する事項の有無を、本文の最後に明記して下さい。利益相反関係がある場合には、関係する企業・団体名も記載して下さい。また、研究費の補助を受けている場合、公的機関や私的企業の名称等を明記して下さい。利益相反開示事項がない場合は、末尾に「開示すべき利益相反状態は存在しない」の文言を記載して下さい。

7 編集・刊行

- 7・1 論文の採択および編集の決定については、すべて編集主幹が行います。
- 7・2 校正は著者が行い、著者の校正は脱字、誤植の訂正の程度にとどめ、原因、表の差し替え、原文の変更もしくは追加を認めません。
- 7・3 冊子体刊行後、電子ジャーナルとして公開します。
- 7・4 編集、刊行、投稿料、別刷料については、札幌医科大学附属総合情報センターに連絡して下さい。